

## 長崎東高校と議員との意見交換会 概要

○参加者 議員：本多泰邦議員、白川鮎美議員 生徒：2年生 1名

○発表テーマ：『子育て手帳』で子育てにおけるジェンダー平等を実現する

○意見交換会要旨

(白川鮎美議員)

率直にとっても素晴らしい発表だったと思います。緊張されたかと思いますが、トップバッターとして一人で堂々と発表されていて、大変感心しました。「ジェンダー」をテーマに、子育て手帳について発表されましたが、若い世代の男性がこのテーマに着目したという点に、私は非常に優れた視点だなと感じながら聞いていました。

(本多泰邦議員)

目のつけどころが非常に良いと感じました。途中でジェンダーギャップ指数の資料がありましたが、北欧諸国が上位に位置し、アジアやアフリカは下位になっていて、文化の違いが影響しているのかなと思いました。ただ、家事の分担率の数値はジェンダーギャップ指数と似ているようで、完全に一致しているわけではなく、そうした違いに、何かヒントがあるのではないかと感じました。

(生徒)

以前、長崎市の事業である「子どもゆめ体験」で、子どもの幸福度が世界一とされるオランダを訪問しました。その際のホームステイ先では、母親ではなく父親が料理をすべて作るなど、多くの家事を担っており、家庭のあり方が日本とは全く異なると感じました。こうした経験から、ジェンダー平等の問題に着目すべきではないかと考え、今回のテーマの探求に取り組んでいます。

(白川鮎美議員)

母子手帳に目を向けた発想が本当にすごいと思いました。母子手帳って、妊娠中の健康管理という意味では母子が中心になるのは当然ですが、子育てには男性の参画も欠かせません。だから、スタートの段階から父親も子育てに参画していくって意味で、「母子手帳」と「父子手帳」を分けるんじゃなくて、一つにまとめて「子育て手帳」にするという発想は、とても素晴らしいアイデアだと感じました。また、すでにアプリ化した時の画面も作成していて、非常に実現可能性が高いと思いますので、今後、ニーズ調査などをして、よりブラッシュアップしていただければと思います。あと、提案発表の中で、国連大学での発表があるって言っていたと思いますが、もう少し詳しく教えてもらえますか。

(生徒)

学校の探究活動の一環として、国連大学の職員の方に発表をする場を設けてもらい、意見をいただく予定です。

(白川鮎美議員)

県にも活用してほしいとのことでしたので、行政の範囲で付加できる機能について、もう少し調べてみると良いと思います。例えば、公園や子育て支援センターの場所情報、離乳食の作

り方など、そういった機能もあるとより良くなるのではないかと感じました。

(生徒)

「子育て手帳」の実現に向けて、今後、県の何かしらの機関にお願いしたいと考えているのですが、実現するとなっても、話が大きすぎて、何から手を付ければいいのか分からなくて。どこに相談したらいいと思いますか。

(本多泰邦議員)

子ども政策局や男女参画・女性活躍推進室とかが担当になると思います。

はじめは、担当部署に話を聞きに行くだけでもいいんじゃないかな。

(白川鮎美議員)

今後、国連大学での発表などを通じて、さらにブラッシュアップし、ご自身が納得できる成果に到達した段階で、もう一度お話を伺わせていただければ、その後、私たちが担当部署につなぐことはできると思いますので、何かあったらぜひ相談してください。

そろそろ時間ですので、最後に、本多議員から一言お願いします。

(本多泰邦議員)

行政と県民は本来もっと近い関係であるべきだと考えています。現状では少し距離があって、取っつきにくかったりすると思いますが、その橋渡しをするのが私たちの役割です。議員も県民の代表として活動していますので、ぜひ議会にも触れる機会を持っていただければ、よりお役に立てると思います。

また、選挙は皆さんが「長崎をどうしたいか」「国をどうしたいか」という意思を示す大切な機会です。しっかりと政治に触れ、未来をつくるための選択をしていただくことが重要だと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

本日はありがとうございました。